

けんしゅうしましよ

1号
H27. 5. 26
文責 伊藤

道徳 主題名 相手の立場にたって
中心内容項目 B 主として人との関わりに関すること
(相互理解・寛容)
資料名 ブランコ乗りとピエロ (私たちの道徳)
5の1 小林学級

5月15日(金)2校時、5の1において道徳の授業が行われました。今年度からスタートした道徳研修の提案授業として、総合単元ユニットで構成された授業を展開しました。導入で価値への意識づけを明確にし、指導したいねらいがはっきりしている授業展開になりました。



今後の道徳の授業作りに向けて

小林先生の提案授業研を通して、様々な意見をいただき今年度帯小が目指していく道徳の授業の方向性が明確になってきました。

①価値への意識づけについて

○価値への意識づけがあったため、児童の考えがまとまってしまったのではないか？

○心情と行動の両立が必要か？

というようなことが話題となった。教師がこの道徳の授業を通して考えさせたい道徳的価値をしっかりおさえ、児童にも意識させることで自分の生活と結びつけながら道徳的価値を自覚したり、一般化したりすることができる。よって、毎時間必ず児童に提示シートにも書かせるようにする。しかし、授業を展開する中で児童の考えを広げるため以下のような工夫は必要である。

- ・写真、委員会の活動ポスター、アンケートなどを活用していくと一人一人の生活に生かしていくことができる。
- ・「自分だったらできるのだろうか？」という問いかけやゆさぶり。
- ・最初に提示する「価値への意識づけ」は心情・行動の二つの内容が入っていないともよい。その価値項目に合わせてよい。

②資料の活用について

低学年は資料の登場人物に自分を重ねていき、高学年は資料からもっと早く離れ、自分の生活や生き方を見つめ、自分事として考えを深めていくとよい。板書の工夫。

③総合単元ユニットについて

他教科や行事などをつなげることで、児童の実態に合った道徳の授業が展開され、更に道徳的実践力として表出していくことができる。計画的に総合単元ユニットを考えていかなければならない。またアンケートも児童の実態を理解する上で、タイミングを考えてとっていく。

校長より

道徳の授業は価値のおしつけではなく、指導である。「価値への意識づけ」の提示の仕方や振り返り方は、これからの授業で見直していけばよい。(詳しくは校長からの資料をよく読んでください！)

新年度スタートの忙しい中、提案授業をしてくださった小林先生、特別支援ブロックの提案ありがとうございました。次回は2の1新川学級の授業です。これからもみなさんと「帯小の道徳」をよりよいものにしていきましょう！！